



## 新しく指定・登載された

## 遺物を紹介します！



### 令和5年度 指定遺物

北きたいなりちょう稲荷町遺跡（旧広徳寺桂香院跡 東上野5-6）出土の大型おおがたひしゃく柄杓を指定しました。柄杓は白木で、柄部分95cm、容量が一升（1.8ℓ）リットルある大型の柄杓です。総ヒノキづくりで、装飾は施されておらず、完形品です。他に類例がなく、祭祀さいしなどに使われていたのではないかと推測されます。台東区の寺院の歴史を考える上で貴重な資料です。



上は、大型柄杓の写真です。重たい粘土質の土の中から見つかったため、わずかに変形していますが、その他大きな傷などは見つかりませんでした。何に使ったのかはよくわかっていませんが、他に類例が見つかるといいですね！

もう1か所、<sup>きたきよしまちよう</sup>「北清島町遺跡（東上野6-8-11）」の出土遺物も掲載されました。北清島町遺跡は、浅草田島町遺跡と同じく低地に位置しています。17世紀の半ばに、大名板倉家の屋敷地となりました。

出土した遺物の年代は、主に19世紀の遺物が多く、板倉家が福島藩を治め、調査地を中屋敷として使用していた時期と重なります。板倉家の藩主は、大坂（阪）加番という役目につくことが多く、舶来物に触れる機会があったためか、ヨーロッパ産陶器やジンボトル、革靴などが出土しています。また、幕末の様相を知ることのできる木札や、めずらしい木硯<sup>もっけん</sup>なども見つかっています。



庭の池の跡から見つかった<sup>まぐ</sup>柵列



オランダ産ジンボトルとヨーロッパ産陶器



同じ低地の遺跡でも、浅草田島町遺跡とはまったく違うね。



お墓はないけど、柵以外に何も見つからなかったのかな。



調査した場所が、敷地の中の池に当たる部分だったんだよ。遺物は少なかったけど、めずらしいものが見つっているね。



木硯とは、字の通り「木の硯」のことで、一般的な硯より軽いので、旅行の時などに使われていました。



木札

この木札は、今の千葉県の東金市にあるお寺からの御礼状です。幕末の争乱の時代のことが分かります。

『台東区のまい・ぶんニュース 第14号』

編集・発行 台東区教育委員会生涯学習課文化財担当

〒111-8621 台東区西浅草3-25-16

TEL 03-5246-5852

印刷 株式会社 DI Palette

令和6年3月15日発行